

やまなし

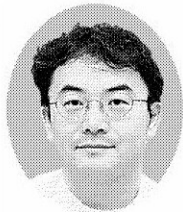
医療最前線

県立中央病院から

《 40 》

県立中央病院は県内で生まれた1500名未満の低出生体重児を一手に引き受ける。12床の新生児集中治療室(NICU)がある新生児科で近年、急性期医療と並んで力を入れているのが赤ちゃんの退院後。フォローアップ外来を通じて、子どもと家族の長期的なサポートを実践している。

総合周産期母子医療センター新生児科副科長の内藤敦医師によると、県の周産期医療成績はこの10年で飛躍的に改善し、新生児死亡率は2年続けて全国で最も低い。



内藤 敦
新生児科副科長
緊急が同病院の医師と保育器を乗せて救急車

救急搬送が必要な新生児に対し、救

外来で家族を長期支援

やドクターヘリで往診搬送に向かうシステムも確立。さらに2009年から、県内の周産期医療に携わる医師や助産師、看護師らを対象に新生児蘇生講習会を実施。出生直後から適切な医療を行える環境が整ってきているという。

「未熟児にとってNICU退院はゴールではなく、スタート地点に立ったにすぎない」と内藤医師。NICUと入院前の体制が整った今、重要なのが退院後だ。さまざまな後遺症や発育・発達の障害のリスクがあり、長期的なサポートの必要性を強調する。

同センターは03年の開設以来、NICUを退院した子どものフォローアップ外来を実施し、現在約580人が受診。新生児科医、看護師、臨床心理士らで構成するフォローアップチームが1歳半、3歳、6歳、9歳に発達・知能検査を行うほか、必要に応じて栄養指導や育児支援、就学相談などに応じる。

地域の支援の拠点となる保健所や療育施設、リハビリ施設なども連携。子どもと家族が「迷子」にならないよう、適切な時期に適切な経済的、社会的支援につなげることも同チームの大きな役割という。

新年度には、退院後の生活をきめ細やかにサポートする専門のコーディネーターが配置される予定だ。内藤医師は「急性期から助けた赤ちゃんが退院後も健やかに成長することが重要。親が必要以上に悩まず、子どもに愛情を注ぐことに専念できるよう支えていきたい」と話している。

Ⅱ第2、4木曜日に掲載します

NICU退院後のサポート

- ▶ 赤ちゃんに対する不安の解消
平穏で当たり前な日々が続くこと
育児に対する気軽な相談相手の存在
- ▶ 感染症の予防と良好な発育
予防接種の推進
哺乳・摂食指導、栄養相談
- ▶ 発達に対する適切な評価とサポート
心理・理学・言語・作業療法
地域社会（保育園、幼稚園）への参加
- ▶ 経済的・社会的支援の適切な情報提供
保健師・訪問看護ステーションの協力
身体障害者手帳・療育手帳などの申請